

東京湾大感謝祭報告

【出展までの経緯】

東京湾大感謝祭は2013年から毎年実施されている（新型コロナ禍での開催は一時期見合わせ）。海藻おしば協会は、新型コロナ以前は、赤レンガ倉庫などでの開催時に海藻おしば作りで出展していた。しかしどういった経緯かは不明だが出展しないままの状況であった。

昨年海藻おしば協会が新体制になり、東京湾再生官民連携フォーラムの間瀬事務局長に海藻おしば協会の新体制の報告をした際に、東京湾大感謝祭の出展に関してお話を頂き出展となった。出展料のかかるイベントではあるが、広く普及啓発をしていく上では必要な出展と考える。

実施日時	令和7年9月27日（土）～28日（日）	10時から17時
場所	横浜市役所 アトリウム	
スタッフ	27日（土）：葦島恵利講師・永島美保講師 会員サポート：井上一幸・高橋佑佳・則竹栄子 28日（日）：高山優美講師・矢部晶実技指導員 会員サポート：塚越円・山口友子・永島美保	

【2日間の様子】

メインステージでは、終日ステージプログラムが行われ、20の企業ブースやその他活動団体のブースが出展した。東京湾にまつわる食としてキッチンカーやご当地食材のマルシェなどもあり、賑やかなお祭りであった。家族連れも多く子どもから高齢者まで沢山の来場者が楽しんだ様子であった。

海藻おしば協会の出展ブースでは、海藻おしば標本を展示し海の森の大切さを説明しながら海藻万華鏡教室を実施した。出展料の経費も掛かっているため、ワークショップは有料（500円）で実施した。

2日目の10時から海藻おしば協会高山優美講師による、海の森からのメッセージとして海藻クイズや水中映像教材を使用し対話形式で海の森の大切さと海藻おしば協会のブースで実施している海藻万華鏡のプレゼンテーションを実施した。

【参加者】2日間の海藻万華鏡作り参加者122人。見学者多数。



豊かな海を育む藻場再生の取り組みをしている企業や横浜市、横須賀市、東京都など各団体が出展ブースで活動の紹介やワークショップを実施した



高山講師は、クイズや映像を使って、来場者に参加してもらいながら海の森の役割や海洋環境の大切さ再認識してもらえようステージプログラムを実施した。

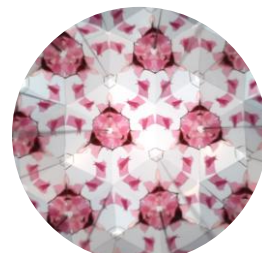
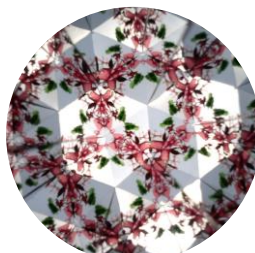
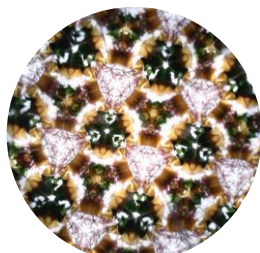
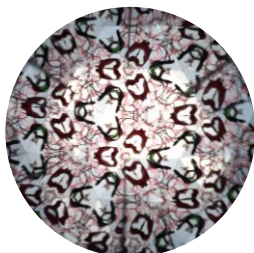
【海藻おしば協会 ワークショップブースの様子】



ブース内は、スペース的に1回に6人であったが状況を見ながらしたスペースで実施できるように配慮した。遊びに来てくれた協会員も呼び込み係などで活躍



未就学児の家族連れが多く、未就学児にお話は集中力が持たないため、保護者に小冊子の内容の説明を行った。「え？そんなに海藻って多いの？知らなかった」「知らなかった海の事が知れてよかった」など保護者にとっても海の学びになった。万華鏡を組み立ては、スタッフがサポートや家族で協力しながら組み立ても楽しみ、海藻の万華鏡をのぞきながら笑顔の時間を過ごしていた。また同じ回の参加者同士見せ合いながら「見せてもらえる？」「素敵！」と参加者同士のコミュニケーションがうまれていた。それぞれ違った世界で1つの海藻の万華鏡が出来上がった。【万華鏡のぞいた時の柄↓】



【次回に向けて】

新体制になり、5万以上の出展料のかかるイベントは初めての経験であった。ステージプログラム出展やブースの位置、資材など実行委員の方にご配慮いただきながら出展させていただいた事に大変感謝します。今回参加費500円で実施できたのは、セブンイレブン記念財団のご支援で「万華鏡キット」「パンフレット類」などが準備出来た事である。子どもが「やりたい！」とブースに来てくれても保護者は「無料じゃないの？」「お金かかるならいいです」と断られるケースもあり残念に思うケースもありましたが、私達も今後の活動の継続を考える上で無料での実施は出来る状況ではない。

有料でも122人の方に実施できた。無料のケースを考えた時、キャパオーバーが予測されるため次回の出展時の参考としたい。

今回の出展により新しい協会員と協力しブースを運営できた。この他「地域で講座を開催して欲しい」などの相談もあり、次につながる経験となった。引き続き海藻おしば協会は、ただのモノづくりではなく海を学ぶための活動としてのワークショップを実施していきたい。

ご協力いただいた関係者の皆様には心から感謝します。

【高山優美】